

2. 論点②：市民が利用しやすい図書館とは

前述の論点①「現在の松江市立図書館に対する市民の思い（イメージや印象）」をもとに、利用しやすい図書館像について意見を求めた。

（1）立地について

特に多くあげられた意見は、立地と駐車場に関するものであった。立地については、公共交通機関、自家用車、いずれにとってもアクセス・利便性の良い場所を望む意見が多く、具体的な例として、JR 松江駅や大規模商業施設に隣接する場所等への移転を望む声があった。多くの市民が利用する施設の近くに図書館があることで、最初から図書館の利用を目指して来館する利用者の他に、偶然通りかかることから利用につながるケースも期待できる。

（2）駐車場について

中央図書館の駐車場に関して多くの意見があった。駐車台数の確保、駐車場から図書館の建物への移動の安全性、駐車料金無料時間についての改善案であった。駐車場無料時間については、現状の 30 分では短かすぎであり、ゆっくり本を選んだり、レファレンスの時間を考えると、少なくとも 2 時間程度は無料であってほしいとのことであった。

（3）館内設備、図書館機能について

館内設備、図書館機能については、学習スペースや独立した子どもスペースの必要性の他に、子育て世代・高齢者・障がい者等すべての利用者が使いやすい基本的な設備（トイレ、書架の間隔、館内表示など）、一律でなくそれぞれにとっての居心地の良さ、お気に入りの空間が見つかる雰囲気づくりがほしいという意見があった。

また、こうした個人による利用のほかに、地域のコミュニティづくりの場や情報機能（例えば地域のイベント情報が図書館に集まる等）をもとに人が集まる場所といった集団の利用についても言及された。

（4）その他

上記の他、専門知識をもった司書や館内の総合案内等を行うコンシェルジュの存在も必要だという意見も出された。

また、仕事帰りに寄ることができる、働く保護者も子どもを連れて夜に利用できる等、開館時間の工夫についての意見もあり、潜在的な図書館利用のニーズが高いことを伺わせる意見が出された。